

2026年  
8月

家庭教育通信 ファミエデュ

FamiEdu



なるほど!  
だから英語は  
難しいんだ!



大母音推移って?

日本語とはここが違う!

# 英語は難しい？

英語は、5世紀中頃にヨーロッパ大陸からイギリスに移住したゲルマン系の部族の言葉が起源です（古英語）。その後ラテン語やフランス語の流入により大きく変化して現代英語になりました。その間、産業革命や植民地政策などを経て世界中に広まったのです。

英語は難しい、という声をよく聞きますが…



# 最も遠い言葉

確かに日本は日常生活で英語を使う機会があまりない上に、英語と日本語では発音の体系や文の構造が大きく異なっています。

アメリカ国務省の分類においても、日本語は、英語を基準とした言語的な距離が最も遠いカテゴリーに指定されています。



# 子音(しいん)と母音(ぼいん)

日本語の子音の数は約 16 個、英語の子音は約 24 個と言われ、例えば、L と R、V と B、TH と S・Z の聞き分けなどが必要です。

日本語の母音の数は「あいうえお」の 5 つですが、英語は（地域や分析方法の違いにより）約 15 ～ 20 個あります。

このため、英語の聞き取りや発音が難しく感じるのです。



# 子音の違い

日本語の子音は基本的に母音とセットですが、英語は子音のみを発音します。例えば、b e d はベッドではありません。最後の音はド（d o）ではなくトゥ（d）です。

a p p l e はアップルとは発音しません。プ、ルから「う」を取り除きます。ですので、早口で発音した時にアップルにはならずアポのように聞こえます。



# 赤ちゃんは発音できるが

生後6ヶ月頃までは特定の言語に染まらず、日本人の赤ちゃんでも舌を突き出したり唇を嚙んだりしてTHやVを発音したりします。

ですが、残念ながら、生後10か月頃から1歳頃にかけて、自分の周りで使われていない音は脳から消えてしまうのです。

さらに、発音を学ぶ上で英語の綴りの難しさがあります。



# 大母音推移

## (だいぼいんすいい)

英語には15～17世紀に大母音推移と呼ばれる大きな発音の変化がありました。それまでのローマ字読みに近い発音から、母音の中の長母音だけ、舌の位置が一段ずつ押し上げられた発音へと変わったのです。

O オー⇒ウー    E エー⇒イー    I イー⇒アイ  
A アー⇒エイ    U ウー⇒アウ    ...

(AやI、Uのように二重母音になったものもあります)

# 長母音の変化

その結果、古英語と現代英語ではまるで別の言語のようになってしまいました。

|       | 古英語  |   | 現代英語 |
|-------|------|---|------|
| name  | ナーメ  | ⇒ | ネイム  |
| moon  | モーン  | ⇒ | ムーン  |
| feet  | フェート | ⇒ | フィート |
| time  | ティーム | ⇒ | タイム  |
| house | フース  | ⇒ | ハウス  |

# 短母音

一方で短母音はあまり変化せずにローマ字に近い発音のままです。このため同じ文字でも単語によって読み方が違うのです。

## 短母音

|     |     |
|-----|-----|
| tap | タップ |
| on  | オン  |
| met | メット |
| bit | ビット |

## 長母音

|      |     |
|------|-----|
| tape | タイプ |
| moon | ムーン |
| meet | ミート |
| bite | バイト |

# 黙字（もくじ）

さらに発音しにくい音が読まれなくなり文字だけ残った黙字と呼ばれるものがあります。

古英語

現代英語

know    クノウ    ⇒    ノウ (kが黙字に)

night    ニヒト    ⇒    ナイト (ghが黙字に)

castle    カステル    ⇒    カッスル (tが黙字に)

lamb    ラムブ    ⇒    ラム (bが黙字に)



# 綴りと発音が違う英語

黙字ができた原因の一つは、印刷技術の進歩です。15世紀に活版印刷が導入されたことで単語の綴りは当時のまま本に残りました。その後に発音が大きく変化したため、読まなくなった文字が黙字となったのです。

こうして、英語は書いてある通りには読まない言語になったと言えます。

A B C D

# 発音のマスターには

発音に関しては、まず、日本語にはない音の出し方、特に、大母音推移で触れたように、舌の正しい位置を理解する必要があります。

さらに、英語の綴りと発音の関係をまとめた基本的なルールであるフォニックスを理解すると英語が読めるようになります。

英語と日本語では、文の構造も大きく違います。

# 現代英語は語順重視

日本語は、語順を入れ替えても同じような内容を表すことができます。

私はあなたを好き = あなたを私は好き

※助詞（～は、～を）で関係を表す

古英語では語の順番は自由でしたが、現代英語は語順を重要視し、原則変更できません。

I like you. ≠ You like me.

※語順で関係を表し、変えると意味も変わる

# 動詞の位置の違い

日本語では結論を表す動詞（～です、～する）は文の最後ですが、英語では主語（～は）のすぐ後に動詞を置きます。まず結論を伝えて自分の意見をはっきり主張します。

「私はそういうことはあんまり…」

（好まないことをやんわりと伝える）

“I don't like that.”

（私好きじゃないの、そういうの）



# 英語では主語は必須

日本語では、言わなくてもわかるものは省略されます。英語は、「誰が何をするか」を明確に伝えることを重視し、省略をしません。主語は必須で、英語の構造上、省略すると文として成立しません（命令文を除く）。

犬を飼ってます I have a dog.

京都に行ったよ We visited Kyoto.



# 数や時間へのこだわり

英語は、数えられる名詞（可算名詞）と数えられない名詞（不可算名詞）があり、加算名詞では複数形や冠詞aの使い方を覚える必要があります。

a dog / dogs      a man / men



また、英語には、時制（過去・現在・未来）に厳密なルールがあって動詞の変化で時系列を明確に表さなくてははいけません。

# 英語の時制

日本語は「～している」で様々なことを表現しますが、英語はそれが毎日の習慣なのか、今のことなのかで動詞の形を変えます。

彼は（毎日）犬の散歩をしています。

He walks the dog (every day).

彼は（今）犬の散歩をしています。

He is walking the dog (now).



# 英語の勉強はパターンで

このように、英語では語の順番や時制の表し方などが、文法できちんと決まっています。

文法というと難しく感じるかもしれませんが、要は、語の並べ方のパターンを知って覚えるということです。

語順に厳しいということは、並べ方に慣れれば英語はわかるようになるのです。

今、英語の授業は小学校から始まります<sup>18</sup>

# 小学校英語

現在の小学校への英語導入の背景には、急速に進むグローバル化により国際社会で活躍できる人材育成が求められたことがあります。

それまでの「読む・書く」中心の英語から「聞く・話す」を加えた4技能をバランスよく育成するように、小学校段階から英語に親しみ基礎的な素地を養うことを目指したのです。



# 導入の歴史

小学校英語は、段階的に導入されました。

1992年 一部研究開発学校で試験的に導入

2002年 総合的な学習の時間に「外国語会話」

2011年 小学5・6年生で「外国語活動」必修化

2020年 小学3・4年で「外国語活動」、小学  
5・6年で「英語（教科化）」

2020年の教科化は、中学校英語に大きな  
影響を与えました。

# 教科化の影響①

小学校の英語が教科化されると、中学校英語の教科書が小学校で習ったことを前提として作られるようになりました。

そのため、中学校3年間で習う単語の数が、以前は1200語程度でしたが、教科化以降1600～1800語となっていて、小学校で扱う600～700語を加えると、ほぼ倍増しています。

## 教科化の影響②

扱う内容についても、「現在完了進行形」や「仮定法」など、高校で扱っていた表現の一部が中学校に前倒しされています。

また、中学1年生で、以前は、b e 動詞を習ってから一般動詞を習っていましたが、今は同じ単元でほぼ同時に習うなど、授業の進み具合が以前に比べて速くなっています。



# 中央教育審議会

中央教育審議会の外国語ワーキンググループでは、学習指導要領改訂に向けた議論が進められています。

取りまとめ骨子案では、小学校英語の意欲の高さや学習の成果を認めつつも、中学生が感じる文法や単語の難しさがあり、英語教育における小学校と中学校の接続に課題があることなどが示されています。

# 英語を学ぶ意味とは

やはり英語というのは難しいもののようですね。でも、英語を学ぶということは、ただ英語が話せるようになるということだけではありません。

A I時代に外国語を必修とする「本質的な意義」について外国語ワーキンググループが骨子案で触れています。



# 言葉、文化、コミュニケーション

○異なる言語や文化への理解は、多様性、多文化共生への理解を深めます。

○また、日本語の特徴や良さへの気づきや日本文化への理解を深めるでしょう。

○直接人とやり取りをしながら、相手を理解すること、場や相手に合わせて伝え方を工夫することなど、コミュニケーションというものの理解を深めます。

# 思考を深め人間関係を豊かに

○多様な主張や価値観、感性に触れ、自分の意見や考えが整理され磨かれることにより、伝える意識が高まります。

○世界の人とリアルにつながることで情報が増え多面的な視野が得られます。

○人間関係が豊かになり、そのことが社会と個人のウェルビーイングにつながるのです。



# 難しいけれど…

何と言っても英語は世界の入り口であり、英語を学ぶことにはこんなにも自分を伸ばすチャンスがあるのです。

英語の難しさを認めつつ、頑張って挑戦を続けてほしいですね。

お子様到大母音推移を知っているか聞いてみてはどうでしょうか。



お読みいただきありがとうございました。旧「家庭教育応援通信」でも様々な話題を提供していますので、まだの方はぜひご覧ください。

